

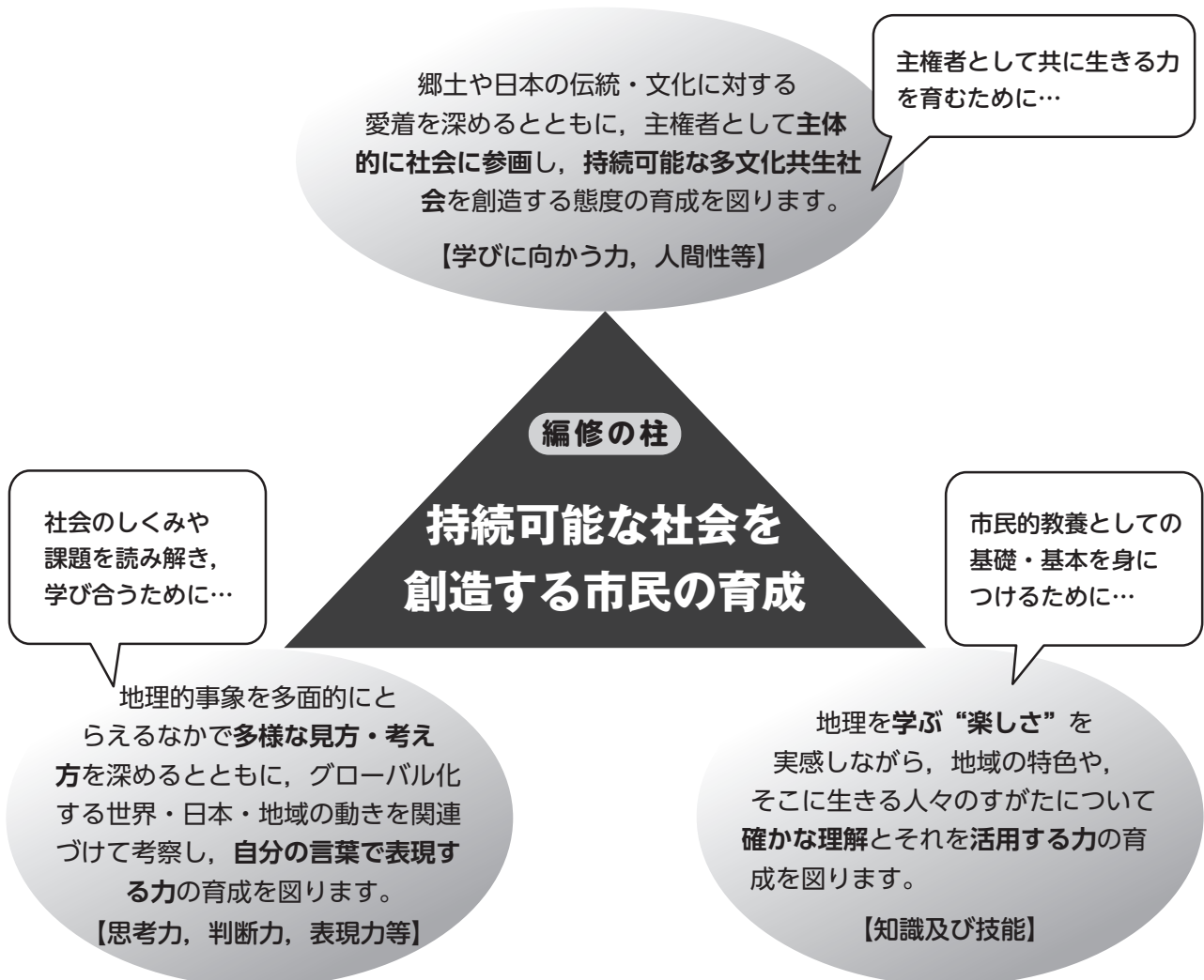
編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-24	中学校	社会	地理的分野	1-2
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	地理 702	中学社会 地理 地域にまなぶ		

1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法に示された「教育の目標（第二条の第1～第5号）」と、学習指導要領に示された「地理的分野の目標」を達成し、社会科のねらいである「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する」ことを目指して、以下の柱と三つの方針に基づき編修しています。




【編修の趣旨及び留意点】

本教科書は、教育基本法第二条に示された教育の目標及び学習指導要領に示された地理的分野の目標を達成するために、以下の趣旨に基づき編修しています。

◆市民的教養としての基礎・基本が身につく教科書

- 生徒が、市民社会を共に築いていくうえで必要な知識や技能を、自らの関心・意欲に沿って無理なく習得することや、その後の学習や社会生活のさまざまな場面に応じて活用することができます。
- 生徒が、地理的な見方・考え方を働かせ、他者とのコミュニケーションを通じて、自分の言葉で表現する力を涵養し、社会や地理についての理解を深め合うことができます。

3年	私たちが住む地域や市について *身近な地域や市の様子、地域にみられる仕事と暮らし、地域の安全、市の移り変わり。	 <p>そして、各学年では左の表のようなことを学びました。思い出してみよう。</p>
4年	都道府県のまちづくりについて *都道府県の暮らし、水(電気・ガス)の供給、廃棄物の処理、自然災害とまちづくり、伝統文化や昔から今と続くまちづくり、都道府県内の特色あるまちづくり。	
5年	日本の国土と私たちの暮らしについて *日本の地形・気候と暮らし、食料生産、工業生産と貿易、産業と情報通信技術、国土の自然と災害、森林や環境の保全。	
6年	日本の政治と歴史、世界と日本について *国や地方の政治のしくみやはたらき、日本の歴史、世界の中の日本の役割。	

◆小学校の社会科の学習では、「時期や変化」、「場所や広がり」、「工夫や関わり」、「比べる」、「関連づける」、「総合する」という「社会科の見方や考え方」を生かして学習を進めてきました。

▲p.Ⅱ 「小学校の社会科の学習を振り返ろう」

地理にアプローチ ～地図やグラフを使いこなそう

中学校の地理の学習では、さまざまな場面や地図やグラフを利用する機会が増えてきます。地図やグラフの読み取り方を学び、使えるようになれば、地理の学習がもっと楽しくなります。まずは、小学校で習った地図のきまりや地図の使い方を思い出しましょう。

1 地図のきまりを思い出そう

地図はとても広い範囲のさまざまな情報を、一枚の紙などに表したものです。「地図のきまりを知っている」ということは、地図の中から、地図に含まれているさまざまな情報を読み取ることができるということです。

方位 : 原則として、地図の真上が北になり、16方位(16種類のよび方)で表します。ただし、真上を北にできない場合は右のような方位記号を用いて北を示します。

→右の図の にはまる方位を記入してみましょう。

16方位は思い方に合わせて！
北と北東の間は北北東、東と南東の間は東南東、8方位の間に北、東、南、西をつけます。

縮尺 : 地図上では実際の範囲を小さく縮めるので、その縮めた割合のことを縮尺といいます。5万分の1、1/50000などと表します。分母の数字が大きければ、より小さく縮められています。縮尺がわかると地図上の長さから、実際の距離を計算することができます。

→5万分の1の地図の地図上の長さが2cmの場合
⇒2cm×50000=100000cm= m

…となります。

地図記号 : さまざまな情報を1枚の地図に見やすく表すために地名などは文字で表しますが、土地の利用の仕方、建物の種類などは記号を使って表します。最近では、時代の変化とともに老人ホームや風力発電用風車の記号が加わりました。

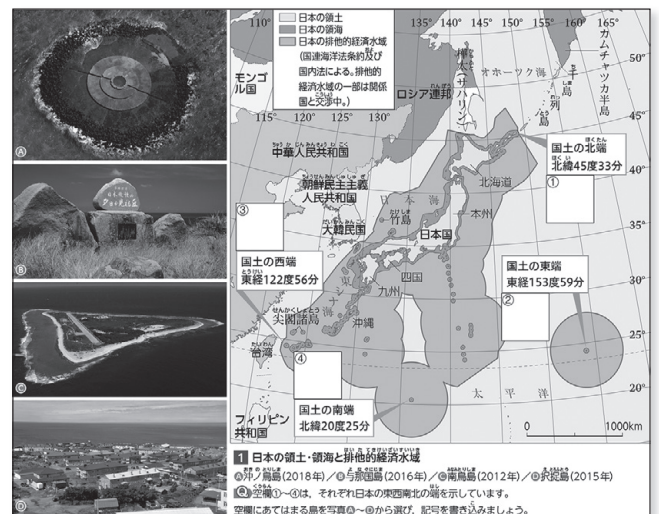
等高線 : 標高(高さ)の等しい地点を結んだ線を等高線といいます。等高線の間隔が狭いと急な傾斜、間隔が広いとゆるやかな傾斜であることがわかります。また、等高線の数を数えることで高さを知ることができます。

▲p.6 「地理にアプローチ」

➡「地理の学習を始めるにあたって」「地理にアプローチ」では、小学校で学習した内容と活用してきた「社会科の(社会的な)見方・考え方」を振り返るとともに、中学校社会科地理的分野における「地理的な見方・考え方」を確認し、地理の学習について不可欠な地図やグラフの使い方などを学びます。こうした学習を通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う基礎としています。

◆現代社会のしくみや課題を読み解き、学び合う教科書

- 生徒が、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら、国際的な見地からも多面的・多角的に考察し、情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養うことができます。
- 生徒が、「地理的な見方・考え方」を働かせて学習を進める中で、自分なりの枠組みで社会や世界をとらえ直し、自己との関わりを考えて、今日的な課題の所在やその解決について探究することができます。
- ➡「日本の国土の広がり」では、日本の領土をめぐる今日的課題や、領土・領域などについて理解を深めます。こうした学習を通して、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようになっています。



▲p.22 「日本の国土の広がり」

◆主権者として共に生きる力を育む教科書

- 生徒が、自らも社会を形成していく市民の一人であることへの自覚を高めることができます。
- 生徒が、責任ある主権者として社会に参画しようとする意識や、多文化共生と持続可能な社会の創造を目指して関わり続けようとする意欲を高めることができます。

➡「地域のあり方」(p.274～281)では、これまでの学習を振り返りながら、農村・都市の課題や自分たちの暮らす地域の課題を見つめ直し、課題を解決する方法を考察・構想していきます。こうした学習を通して、**公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うように**しています。

また、本教科書は、特に以下の点にも留意して、単元構成や教材の選定を行っています。

●日本の多様な伝統・文化に対する認識を深め、市民として地域を創造できる教科書

➡「現代に生きる地域文化」(p.250～251)などを通して、**伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うように**しています。



▲p.280「地域に向けて発信する」



▲p.250～251「現代に生きる地域文化」

2. 対照表

図書の内容・構成と、**教育基本法第二条の第1号から第5号**との対応を示します。

教育基本法第二条

- <第1号> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- <第2号> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- <第3号> 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- <第4号> 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- <第5号> 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

教科書の単元構成		特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭：世界のさまざまな風景－世界遺産 地理の学習を始めるにあたって 地理にアプローチ		○世界の各地の様子を中心に、豊富な写真資料を用いて取り上げるとともに、小学校の学習を振り返りながら、地理への関心を高めるように構成しました。〈第1号〉	○巻頭①～② Op. I～IV Op.6～8
第1編 世界と日本の地域構成	第1章 世界の地域構成 ①身近なものから見える世界 ②地球を表す模型 ③地球儀から世界地図へ ④200近くの国々からなる世界 ⑤「ユニオンジャック」はどこにある？	○地球儀や世界地図の読み取り方を学ぶことで、小学校での学習内容をさらに深め、整理できるようにしました。〈第1号〉 ○各国の国名や国旗などを学ぶことで、伝統・文化の意義とその継承についての理解が深まるようにしました。〈第5号〉	Op.10～15 Op.16～19
	第2章 日本の地域構成 ①世界の中の日本の位置 ②日本の国土の広がり ③日本の領土をめぐる ④47の都道府県	○東アジアにおける日本の位置や、都道府県庁所在地の発達と変化などについて、小学校で学習した内容を整理し、確認しながら進められるようにしました。〈第1号〉 ○日本固有の領土である北方領土や竹島、尖閣諸島をめぐる現状について、認識を深めるように配慮しました。〈第5号〉	Op.20～21, 26～27 Op.22～25
第2編 世界のさまざまな地域	第1章 世界の人々の生活と環境 ①地域によって気候が変わる ②赤道に沿った暑い地域の暮らし ③植物の少ない乾いた地域の暮らし ④温暖な地域の暮らし ⑤雪と氷に囲まれた地域の暮らし ⑥標高が高い地域の暮らし ⑦さまざまな言語と人々の暮らし ⑧さまざまな宗教と人々の暮らし	○世界各地の人々の生活や労働の様子を取り上げ、地域の自然・社会条件と暮らしとの関わりについて興味・関心を高めるようにしました。〈第2号〉 ○世界の言語・民族・宗教と社会との関わりを通して、多様な価値観や文化に対する理解と寛容を育むようにしました。〈第5号〉	Op.30～41 Op.42～45
	第2章 世界の諸地域 1節 アジア州 2節 ヨーロッパ州 3節 アフリカ州 4節 北アメリカ州 5節 南アメリカ州 6節 オセアニア州	○各節導入部分では写真構成で州のイメージを膨らませ、さらに本編では世界の州の精緻な地勢図を掲載して地域を大観する学習を助けるようにし、衛星画像をはじめ、科学性や芸術性の面からも効果的に活用できる地図など諸資料を掲載しました。〈第1号〉 ○温暖化や酸性雨などの地球的課題について多角的に取り上げ、諸課題の解決や持続可能な社会づくりには国際的な協力はもとより、自らの行動が不可欠であることについて理解が深まるようにしました。〈第4号〉	Op.48～50, 66～68, 82～84, 92～94, 106～108, 118～120 Op.54～55, 57, 76～77, 85, 87～89, 100, 102～103, 111, 112～113, 115, 121, 123, 124～125
第3編 日本のさまざまな地域	第1章 地域調査の方法を学ぼう ①地域をながめて ②調査の計画を立てる ③地形図を使って調べる(1) ④地形図を使って調べる(2) ⑤地域の防災について調べる ⑥調査の結果をまとめる ⑦他の地域と比べる	○地域調査について学習していく中で、自分なりに考えてテーマを設定したり、仮説を立てたり、意見を交換したりする学習活動が充実するようになりました。〈第2号〉 ○地理的技能の一つである地形図の読図を身につけ、さらに新旧の地形図を読み取ることで、地域の変化に気づき、郷土に関する興味・関心が高まるようにしました。〈第5号〉 ○公共的な活動や政策に取り組む人々の様子を取り上げ、活動の内容や人々の思いに触れる学習を通して、社会形成への参画意識を高めるように配慮しました。〈第3号〉	Op.134～137 Op.138～141 Op.142～146
	第2章 日本の特色と地域区分 *地域区分をしてみよう ①変動する大地、安定した大地 ②変化に富む日本列島の地形(1) ③変化に富む日本列島の地形(2) ④四季のある気候 ⑤自然災害に向き合う ⑥災害から身を守るために ⑦変化する人口 ⑧人口分布のかたよりがもたらす問題 ⑨輸入に頼る資源・エネルギー ⑩日本の産業活動と立地 ⑪交通・通信による結びつき	○地形、自然災害と防災、開発と環境保全に関する具体的な事例を豊富に取り上げ、自分たちの暮らしとの関わりについて関心と考察を深めるように構成しました。〈第4号〉 ○日本の人口の特色に関する、分布図や人口構成などの資料を読み取る作業を通して、人口から見た我が国の地域的特色を理解できるようにしました。〈第1号〉 ○我が国がエネルギー資源や鉱産資源の大部分を海外からの輸入に頼っており、消費大国でもあるという現状から、地球の有限性に気づかせ、国際的な合意と協力が必要であることに気づかせるように構成しました。〈第5号〉	Op.148～161 Op.162～165 Op.166～167

第3編 日本のこまごまな地域	第3章 日本の諸地域 1節 九州地方 2節 中国・四国地方 3節 近畿地方 4節 中部地方 5節 関東地方 6節 東北地方 7節 北海道地方	○各節導入部分では写真構成で地方のイメージを膨らませ、さらに本編では各地方の精緻な地勢図を掲載して地域を大観する学習を助けるようにし、科学性や芸術性の面からも効果的に活用できる地図など諸資料を掲載しました。(第1号) ○各地方の様子や、そこに生きる人々のすがたを豊富な写真資料を中心に取り上げ、人権・平和・環境・文化などの普遍的な概念について理解と考察を深めるようにしました。(第1号) ○各地方の特色にせまるための視点を通して、地域社会が抱える課題と、地域を活性化するための人々の工夫や努力について考察を深めるようにしました。(第3号)	Op.174～177, 188～191, 202～205, 216～219, 230～233, 244～247, 258～261 Op.174～272 Op.178～186, 192～200, 206～214, 220～228, 234～242, 248～256, 262～271
	第4章 地域のあり方 ①地域の課題をとらえる(1) ②地域の課題をとらえる(2) ③地域の課題を調べる ④地域に向けて発信する	○学習してきた各地域の特色と課題をとらえていく中で、自分たちの暮らす地域にある課題を見つめ直し、課題解決に向けて主体的に社会形成に参画していきながら、地域や社会を持続可能なものにしていくという意識が芽生えるように配慮しました。(第5号)	Op.274～281

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

本教科書は、教育基本法に示された義務教育の目的や、学校教育法に示された義務教育の目標などを達成するために、特に以下の点に意を用いて編修しています。

特色1 見やすく、わかりやすい紙面

- *教科書の紙面は、ワイドで見やすい**A B判**を採用し、授業展開や学習の見通しがつかみやすい「1時間＝見開き2ページ」で構成しています。
- *興味・関心を高める写真・絵などの資料も豊富に、かつ効果的に配置しています。

特色2 小学校の地理学習との接続・関連

- *第1編直前に設けた「地理にアプローチ」では、小学校で学習した地図やグラフに関する基礎的な学習を振り返る作業を位置づけ、中学校第1学年への**スムーズな接続**が図られるようにしています。

特色3 ユニバーサルデザインへの配慮

- *色覚等の特性をふまえた、**判読しやすい配色(カラーユニバーサルデザイン)**や**レイアウト**、**表現方法**、**文字(ユニバーサルデザインフォント)**などの工夫により、全ての生徒にとって学びやすい紙面づくりに配慮しています。

特色4 地球となかよし

- *教科書の印刷には、環境にやさしい**再生紙**と**植物油インキ**を使用し、地球環境への負荷軽減に配慮しています。また、印刷には**グリーン電力**を使用しています。



▲p.218 「多様な産業がみられる地域」

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-24	中学校	社会	地理的分野	1-2
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	地理 702	中学社会	地理	地域にまなぶ

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本教科書は、学習指導要領に示された社会科の目標及び内容、内容の取扱いに準拠しつつ、教科と地理的分野の改訂の要点などをふまえて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、特に以下の点に意を用いて編修しています。

◆ 「地理的分野の改訂の要点」からみた特色

①地理的見方・考え方を働かせ、情報に向き合い、それについて主体的に選択・判断し、説明・議論する力を養う学習の重視

- 全体を「世界と日本の地域構成」「世界のさまざまな地域」「日本のさまざまな地域」の三つの編に分けました。「世界と日本の地域構成」は、小学校での学習成果をふまえ、世界・日本の地域構成を大観する、地理学習の導入的部分と位置づけました。その後、「世界」「日本」と学習の進行にともない、**学習内容や学習活動が段階的に発展、深化するように構成しています。**
- 特に第3編・第1章「**地域調査の方法を学ぼう**」では、**地図の活用に関する基礎的な知識・技能**を確かめ、続く「日本」の学習に役立てるように構成しました。第4章「**地域のあり方**」では、「日本」の学習成果をふまえて、生徒が生活している地域の発展に努めようとする、**社会参画の視点**を取り入れた学習を深め、**公民的分野の学習への連携**がスムーズになされていくように工夫しています。



▲p.134～135 「地域をながめて」

地理の技

統計資料を使ってみよう

教科書 p.288・289の統計資料を使い、面積の大きい国や人口の多い国を調べて、下の表を完成させましょう。

	面積が大きい国	人口が多い国
1位		
2位		
3位		

▲p.17「地理の技～統計資料を使ってみよう」

②地理について考察する力や説明する力の育成

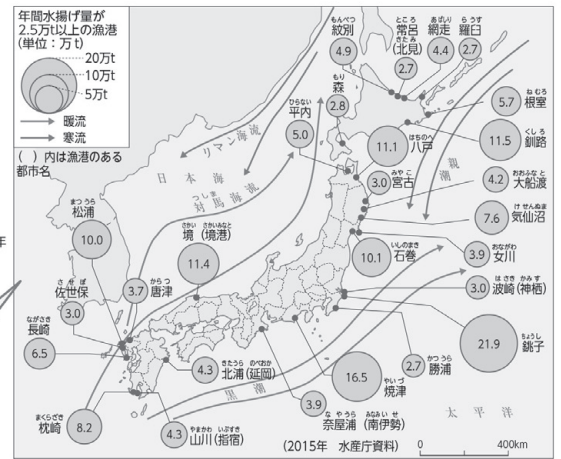
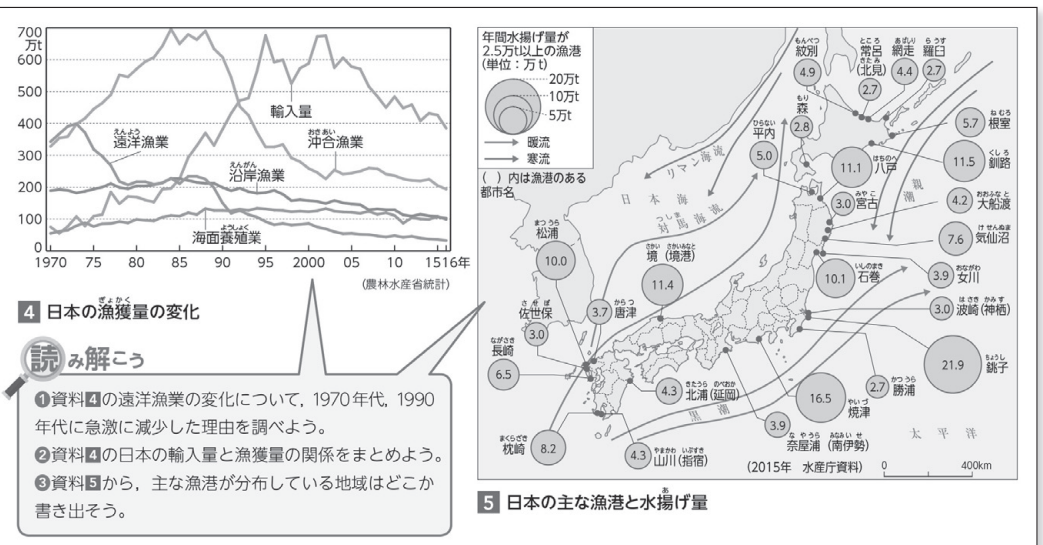
▶p.223「先進的な第一次産業」

●学習の冒頭の「**地理の学習を始めるにあたって**」では、小学校の社会科の授業の振り返りと、中学校の社会科の見通しを示すことで、**小学校の社会科との接続・関連を図ると同時に「地理的な見方・考え方」を働かせて以降の学習が展開できるように配慮しました。**

●さらに「**地理にアプローチ**」を設け、方位や縮尺、地図帳の使い方などの小学校社会科で学んだ**基礎的な知識を確認**できるように配慮しました。

●本文中に「**地理の技**」のコーナーを適宜設け、世界・日本の略地図の描き方、統計資料の使い方などについて取り上げることで、生徒が**基本的な地理的技能**を身につけやすいように配慮しています。

●地理の基礎的・基本的な技能の習得を図るために、本文の流れに即して「**読み解こう**」のコーナーを設け、具体的に資料を読み取りながら、考察する学習活動を重視しました。写真・地図・グラフなどの多様な資料について、具体的な手がかりや問いかけをもとに取り組む中で、**資料活用を中心とした読解力**が身につくように配慮しています。



▼p.171「交通・通信による結びつき」

確認! 日本と世界はどのような手段で結びついているか、人、もの、情報に分けてまとめよう。

表現! 交通や通信の発達が地域社会へどのような影響を及ぼしたか、まとめよう。

●本文の学習ごとに、学習課題と対応させた「**確認**」と「**表現**」のコーナーを設けました。この時間で学習したことをもとに、「確認」では**基礎的事項の確認・整理**、「表現」では**地理的事象や課題などに関わる説明や話し合いなどの表現活動**と、段階的に取り組めるように工夫しています。

●章や節などの末尾に、「**学習のまとめと表現**」のページを設けました。まず、学習してきた地域について、再度地図を用いて**主な地名などの確認**、「**ワードチェック**」では**学習してきた言葉の確認**と、知識に関わる整理ができます。その後、設定されたテーマについて**自分なりの言葉で説明する「表現しよう」**、さらにまとめた意見について互いに話し合う「**意見を交換しよう**」を設けました。

学習のまとめと表現 九州地方の学習を振り返って整理しよう

ワードチェック

① 次にあげた九州地方で学習してきた言葉が説明できたら、□に印を入れよう。

- カルデラ
- 世界遺産
- 火山
- 地熱
- シラス台地
- ハザードマップ
- 施設園芸
- 畜産
- 北九州工業地域
- エネルギー革命
- 集積回路(IC)
- キーワード

▲p.187「九州地方の学習を振り返って整理しよう」

③ 地域的特色に関わる学習の重視

●大項目B・Cに位置づけられた「諸地域」学習については、教科書総ページ数の半分以上を充て、重点化して取り扱いました。学習の中核となる「世界の諸地域」「日本の諸地域」については、それぞれ節で区分し、まとまりとしてとらえやすくしました。

④ 地図の活用を中心とした地理的技能育成の一層の重視

●世界・日本の「諸地域」の学習では、**写真資料で構成された見開きページで学習前に節全体を概観**できるようにし、それに続く2ページに**世界の各州や日本の各地方の地勢図を必ず掲載**し、適宜参照できるようにしました。

●第1編・第2章の「日本の国土の広がり」「日本の領土をめぐって」の学習では、我が国の領域を大観するための地図をまず提示し、次に**北方領土・竹島や尖閣諸島の位置や範囲**について、歴史的経緯も踏まえた本文記述と併せて、**地図と写真**を用いて詳しく理解しやすい構成としています。⇒p.22～25

⑤ 地域調査における「学び方」と言語活動の充実

●第3編・第1章「**地域調査の方法を学ぼう**」では、事例地域における調査の様子をリアルに表現した記述を織り交ぜながらも、生徒による調査過程を再現する構成・記述で展開し、他地域でも調査活動のモデルケースとして活用できるようになっています。特に、調査活動に必要な視点と方法については「**地域調査の手引き**」として位置づけ、強調しました。

●第3編・第4章の「**地域のあり方**」では、「日本の諸地域」学習を受けて、生徒が地域の課題に沿って調査を行い、その結果をポスターにまとめるなどして**地域へ発信**していく展開とし、**社会への参画を図る**ように留意しました。

◆ 「教科書の構成や造本」からみた特色

① 基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図る構成

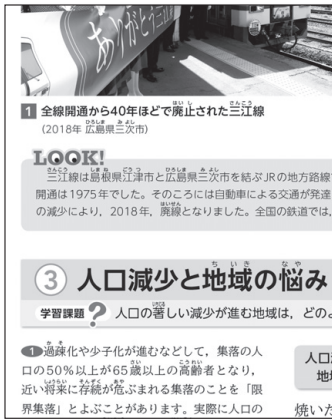
●本文紙面は、ワイドで見やすい**A B判**を採用し、授業の流れや学習の見通しをつかみやすいように、**1時間の授業を見開き2ページ**で構成しました。左上の部分に、学習の導入または中心となる資料を配置し、キャラクターの問いから学習を展開していく形式としています。

▶p.176～177
「多様な自然がみられる地域」

176 第3編 日本の諸地域 ①九州地方

177

(p.156-157)日本の気候 (p.132)世界気候



▲p.194
「人口減少と地域の悩み」

- タイトルには、学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習事項を示す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識をもって学習に取り組めるようにしました。
- 学習の導入となる資料を補足・説明し、本文内容との接続をはかる「LOOK!」により、スムーズに本文に進んでいけるようにしたほか、小見出しと太字の重要語句から学習のポイントをつかみやすいように工夫しています。
- 地図やグラフなどの諸資料にも、「Q」のマークを付した問いかけを設けて、常に課題意識をもって資料を読み取ることができるよう留意しています。
- 難解な用語や補足説明の必要な箇所には、巻末に用語解説を設けるだけでなく、側注も設け、生徒への一助となるように配慮しました。本文中には、資料との関連を示す番号や、前出・後出箇所との関連を示す参照ページ、右ページ下には地理の他ページとの関連のほか、他分野との関連も示しています。

②個人やグループでの学習活動への対応

- 本文の学習から興味や関心を広げていくコラム「地理の窓」を設けています。本文内容からさらに一歩進んで興味・関心を喚起することができる内容です。
- 世界の各州や日本の各地方の事例をもとに、今日的な課題に迫る特設ページを設け、個人やグループで学びを深めていくことへ対応しています。特設ページの最後にも「Q」が設けられ、学習を深めることができます。

地理の窓 深刻化する環境問題

経済が発展するにつれて、さまざまな環境問題が深刻化してきました。石炭を燃やすことなどで排出された煙に含まれる微粒子がぜん息などを起こし、酸性雨による森林の立ち枯れや工場廃水による水質汚染の被害などがみられます。内陸部の草原地帯では、家畜を放牧し過ぎることで砂漠化が進み、山の斜面に無理に農地を開くことで土壌流出が生じています。有害物質の排出規制や自然環境の保護、省エネルギーのための取り組みも行われていますが、問題の解決は容易ではありません。

▲p.57 「地理の窓 深刻化する環境問題」

地域から世界を考えよう アフリカ州

アフリカの歩みと課題

フランスパンが売られている街角。ここはフランスのどこなのでしょう。…実はここ、アフリカの西部、セネガルという国のある街角の風景です。なぜ、セネガルではフランスパンが売られているのでしょうか。

市場でフランスパンを売る人々(2007年 セネガル)

アフリカの民族と言語

アフリカには現在、54の国があり、2000以上の言語が使われています。

例えば、セネガルでは38ほどの言語が話されているといわれています。セネガルの人々の多くは、日常生活では自分の属する民族の言葉を使います。また、公共の場や他の民族の人々と話すときには、公用語であるフランス語や、総人口の45%ほどを占めるウォロフ族の言語であるウォロフ語を使います。人々は複数の言葉を使い分けて暮らしています。

奴隷貿易と植民地分割

ところで、なぜアフリカでヨーロッパの言語が使われるのでしょうか。少し歴史をさかのぼってみましょう。

15世紀以降、ヨーロッパ各国はアフリカと貿易を行うとともに、アフリカの南北の端の端の地域に侵入し、移民を進めました。同時に、武力や高い技術力を背景に、アフリカに住む人々を他の地域に送り込む奴隷貿易を行ったり、植民地として支配したりしました。16～19世紀には、アフリカから1000万人以上の若く健康な人々がアメリカ大陸などに奴隷として運ばれたため、アフリカの人口は急激に減り、その後の経済発展の遅れにつながっていました。

19世紀の末には、ほとんどの地域がヨーロッパ各国の植民地として分割され、支配されることになりました。植民地の境界線は、そこに住む住民の生活や民族分布を無視し、支配する宗主国の都合で引かれていきました。

第二次世界大戦後、アフリカの国々の多くは独立を果たしました。特に多くの国が独立した1960年は、「アフリカの年」とよばれています。各国は植民地ごとに独立したため、植民地時代の境界線が引き継がれました。そのため国境と民族分布が一致せず、一つの国の中に多数の民族が暮らしたり、一つの民族が複数の国に分かれて住んだりする状況がみられます。こうしたことが原因となり、独立後、ルワンダやコンゴなどのように民族間で対立が生じ、紛争となった国も数多くあります。

セネガルでなぜフランス語?

こうした歴史があるアフリカの各国では、公用語を決めるときに特定の民族の言語ではなく、かつての宗主国の言語を選んだ国が少なくありません。フランスの植民地であったセネガルでは、フランス語が公用語となっているほか、食文化の面でもフランスの影響がみられます。

Q アフリカの国々が、宗主国の言語を公用語にする理由や、そのメリット・デメリットについて考えよう。

※セネガルの植民地であったフランスでは、1950年に少数民族の要求を受け、多数の民族が公用語と認められることとなった。1993年に紛争は終結し、その後、政府は「アフリカの言語」とよばれる言葉を選んだ。

90 ●第2章 世界の諸地域 ③アフリカ州

▲p.90 「アフリカの歩みと課題」

③学びを広げ、深めるためのインターネットの活用

- 教科書と当社ウェブサイトをリンクさせ、学習に役立つさまざまな情報を得ることができる「まなびリンク」を設けました。
- 個人でさらに追究したり、グループで調べ学習を進めたりする際の有用な情報の収集などに役立ちます。



2. 対照表

教科書の単元配列	【配当時数】	学習指導要領の内容	該当箇所
第1編 世界と日本の地域構成	【9】	A	p.9～27
第1章 世界の地域構成	5	A(1)①	p.10～19
第2章 日本の地域構成	4	A(1)②	p.20～27
第2編 世界のさまざまな地域	【43】	B	p.28～128
第1章 世界の人々の生活と環境 学習のまとめと表現	【9】 1	B(1)	p.30～45 p.46
第2章 世界の諸地域	【34】		p.47～128
1 アジア州 学習のまとめと表現	7 1	B(2)①	p.48～64 p.65
2 ヨーロッパ州 学習のまとめと表現	6 1	B(2)②	p.66～80 p.81
3 アフリカ州 学習のまとめと表現	3 1	B(2)③	p.82～90 p.91
4 北アメリカ州 学習のまとめと表現	5 1	B(2)④	p.92～104 p.105
5 南アメリカ州 学習のまとめと表現	4 1	B(2)⑤	p.106～116 p.117
6 オセアニア州 学習のまとめと表現	3 1	B(2)⑥	p.118～126 p.127
第3編 日本のさまざまな地域	【63】	C	p.133～281
第1章 地域調査の方法を学ぼう	【6】	C(1)	p.134～146
第2章 日本の特色と地域区分 学習のまとめと表現	【12】 1	C(2)	p.147～171 p.172
第3章 日本の諸地域	【42】	C(3)	p.173～273
1 九州地方 学習のまとめと表現	5 1	C(3)①	p.174～186 p.187
2 中国・四国地方 学習のまとめと表現	5 1	C(3)②	p.188～200 p.201
3 近畿地方 学習のまとめと表現	5 1	C(3)⑤	p.202～214 p.215
4 中部地方 学習のまとめと表現	5 1	C(3)③	p.216～228 p.229
5 関東地方 学習のまとめと表現	5 1	C(3)④	p.230～242 p.243
6 東北地方 学習のまとめと表現	5 1	C(3)⑤	p.244～256 p.257
7 北海道地方 学習のまとめと表現	5 1	C(3)①	p.258～271 p.272
第4章 地域のあり方	【3】	C(4)	p.274～281
用語解説 世界の国々のあらし・日本の都道府県のあらし さくいん			p.282～287 p.288～291 p.292～295
	計115		